

医療者教育学専攻に関するニーズ調査と結果

一次調査（2018年2月）

科学研究費補助金 基盤研究(C) 15K08546 報告書

医療者教育学修士課程への全国ニーズ調査 結果

(回答数 476 名 (平成 30 年 3 月 14 日現在))

① 質問紙序文

医療者にも教育能力が求められる時代になりつつあります。医療者の卒前教育においては、医学、歯学、薬学に続いて看護学にもコアカリキュラムが導入され、それに基づいた専門的なカリキュラム編成や評価システムの構築が求められています。また、卒後教育においても、各レベルの研修プログラムを改善するコーディネータの役割や、よりよい教育ができる実践力が必要になっています。

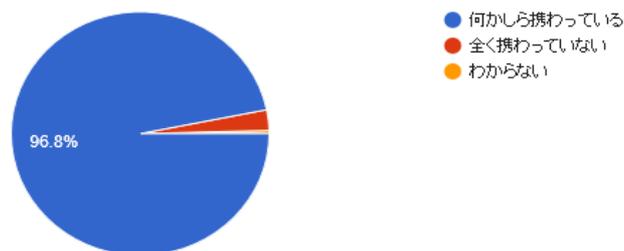
海外ではこのような役割は、医療者教育学の修士号を持ち、学識と教育能力を有する専門家が担うことが一般的になってきています。国際認証でも、そのような専門家を配置することが求められています。しかし残念ながら、わが国では医療者教育学の修士課程がまだ設立されていない状況です。そのため岐阜大学では、医療者教育学修士課程の設立に向けて準備しています。

つきましてはそのような修士課程に対する関係各位のニーズ調査をさせていただきたく存じます。回答時間は、3分程度です。アンケートに対する回答は、個人のお考えで結構です。本調査は、岐阜大学倫理委員会で承認されております。お忙しいところ恐れ入りますが、何卒ご協力下さいませようお願い申し上げます。

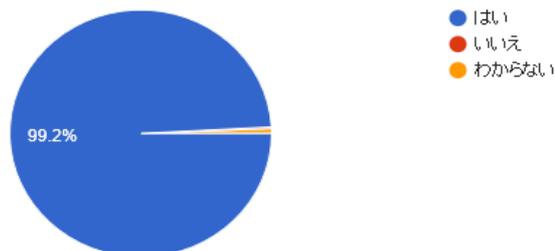
平成 30 年 2 月
全国共同利用拠点 岐阜大学医学教育開発研究センター
センター長 藤崎和彦

② 問と回答

問1 あなたは学生・研修生・新人等（以下、学習者）の教育に何らかの形で携わっていますか？

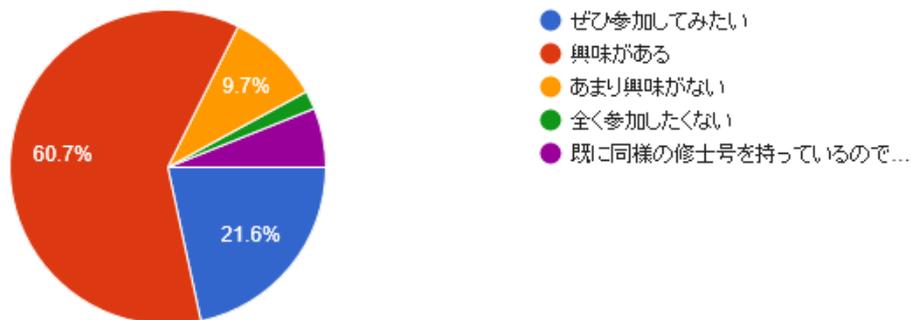


問2 学習者に効果的教育をするために必要な教育能力や体系的知識を獲得することは意義があると思いますか？

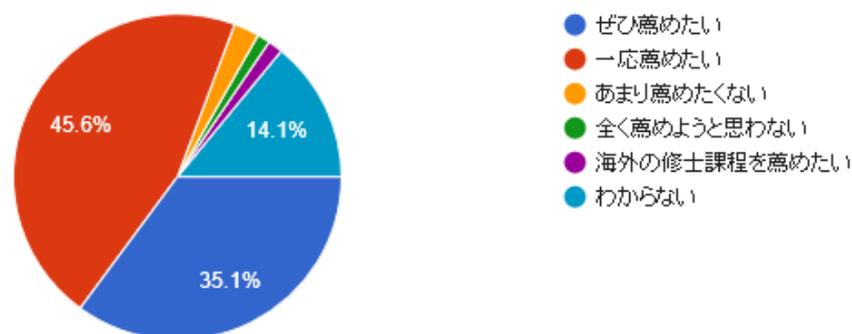


問3 体系的に学ぶ方法の一つに社会人向けの医療者教育学修士課程があります。以下に図示されたような課程が設立されたとして、あなたは参加したいですか？

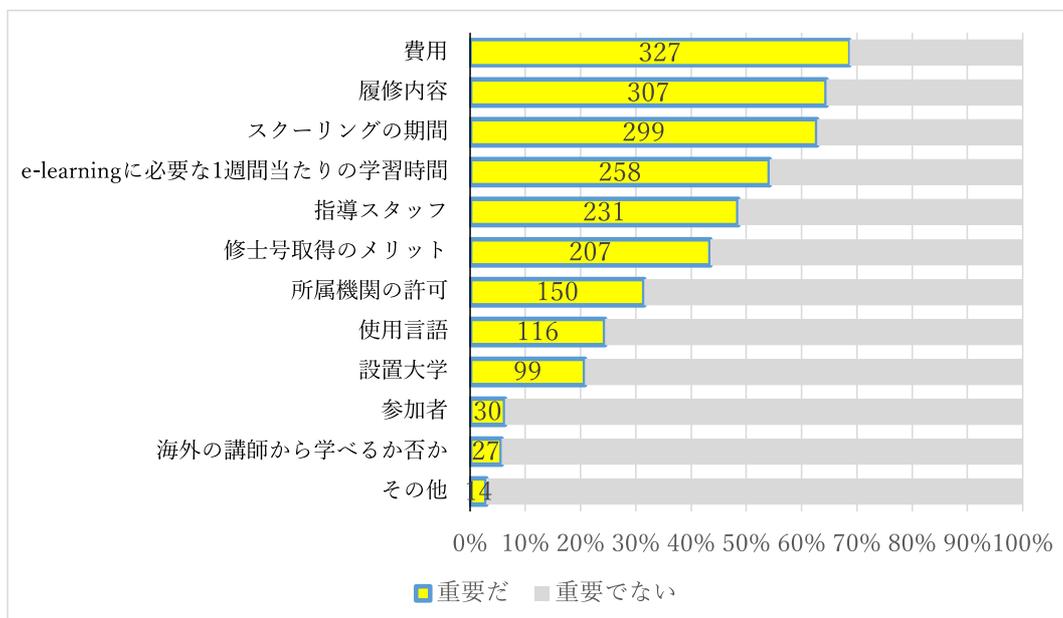
		1年目	2年目	
内容		<科目> (共通) コミュニケーション学・統計学 (専門) 卒前卒後教育での教育法・評価法・プログラム開発/評価・多職種連携、人材育成、比較文化論、研究法・倫理 (選択) 組織改革・質管理		
		<特別研究> 教育研究、もしくは各自の実践改善プロジェクト報告		
履修方法	e-learning (80%)	忙しい社会人でも履修できる環境設定 好きな時間に文献をよみ課題を提出可能 オンラインで議論が可能		
	スクーリング (20%)	年に6回程度、webミーティング		
	講師	講師は、国内外の講師 使用言語は原則日本語、文献には英語も使用		
評価		各科目成績	+	修士論文



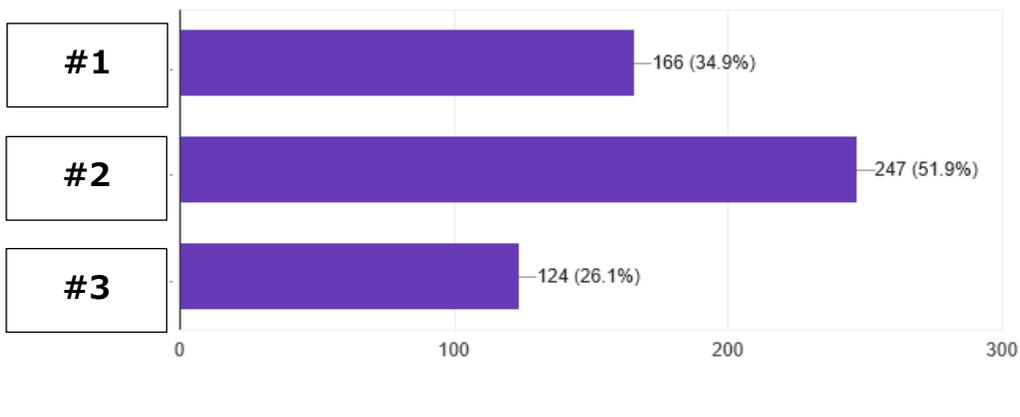
問4 前述のような修士課程への参加を周囲の人に勧めたいですか？



問5 修士課程への入学や推薦を検討する際、重要と考えられるのは何ですか。(複数選択可)



問6 望ましいスクーリングのパターンを選択してください。(複数回答可)

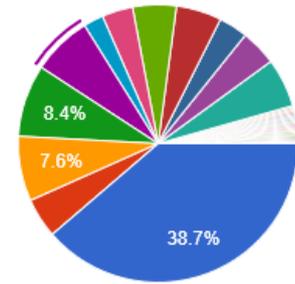


#1 : 1週間のスクーリングを年1回 + 3~4日間のスクーリングを年3~4回

#2 : 3~4日間のスクーリングを年5~6回

#3 : スクーリングはないのが望ましい

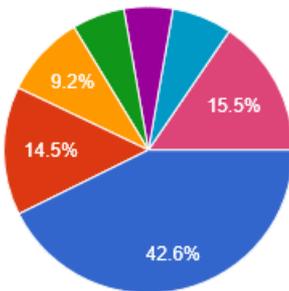
問7 所属部門（主たるもの一つ）



- 1 大学の医療教育部門
- 2 大学の基礎社会学系
- 3 大学の臨床系
- 4 歯学系
- 5 看護系
- 6 薬学系
- 7 リハビリ系
- 8 大学病院

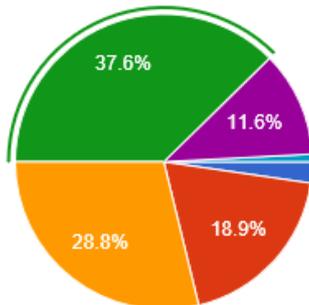
▲ 1/5 ▼

問8 職種



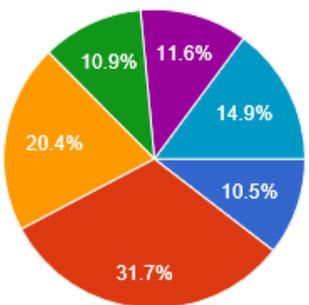
- 1 医師
- 2 看護師
- 3 歯科医師
- 4 理学・作業療法士等
- 5 薬剤師
- 6 その他の医療職
- 7 医療職ではない

問9 年代



- 1 20代
- 2 30代
- 3 40代
- 4 50代
- 5 60代
- 6 70代

問10 現在のご勤務地方



- 1 北海道・東北地方
- 2 関東地方
- 3 中部地方
- 4 近畿地方
- 5 中国・四国地方
- 6 九州・沖縄地方